

平成28年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業  
生涯学習推進基本講座【道北会場】事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 現代的な課題や地域課題等に対応した生涯学習・社会教育の推進について  
～ 協働を目指した地域づくりについて ～

- 1 趣 旨 人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画に関する基本的・実務的な知識や技術などについて理解を深める。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター  
北海道社会教育主事会協議会（留萌管内社会教育主事会）
- 3 協 力 北海道教育庁留萌教育局
- 4 期 日 平成28年 6月24日（金）
- 5 会 場 増毛町 総合交流促進施設元陣屋（増毛町永寿町4丁目49番）
- 6 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員など）、生涯学習・社会教育関連施設職員、青少年教育施設職員、社会教育関係団体職員等  
30名
- 7 参加状況 43名（社会教育関係職員 26名、社会教育関係職員以外 17名）
- 8 日 程

10:00 10:10 10:20 10:40			12:00 13:00			14:45 15:00			16:00	
受付	開会	情報提供	説明	講義 地位の歴史と特性を知り、住民と共に創り上げる地域づくり	昼食・休憩	研究協議 A 地域の担い手を育成するための具体的な取組の検討 B 連携・協働の構築と人や物をとおした地域づくりの取組を検討			個別・相談	解散

※ 個別相談について（希望制）  
推進センター職員が、市町村の生涯学習・社会教育の推進に関わる中・長期計画策定等の個別相談に応じた。



9 活動の概要

(1) 情報提供

【情報提供者】国立大雪青少年交流の家企画指導専門職 国枝 知氏  
留萌教育局教育支援課社会教育指導班主査 為 広 千 里 氏

【内容】国立青少年教育振興機構が推進している推進事業や道教委の推進する事業及び留萌教育局（社会教育指導班）の取組について説明



情報提供

(1) 説明「事業評価のポイントや協働を構築するために必要な視点について」

【講師】北海道立生涯学習推進センター主査 會 田 大 祐

【内容】評価の視点を取り入れた学習プログラムについて、評価の視点や目的、方法などを説明するとともに、協働を構築するために必要な視点について、協働の原則やルール、具体的な進め方のポイントを説明した。



説 明

(2) 講義「地域の歴史と特性を知り、住民と共に創り上げる地域づくり」

【講師】萌っこ春待里実行委員会実行委員長 村 山 ゆかり 氏

【内容】「萌っこ春待里」での活動をとおして、地域づくりを進める団体の思いを知ることや、活動を進める上での行政との関係づくりなど、地域づくりに関わる人たちが「支え合う」関係性を築くことが大切であると示唆した。



講 義

(3) 研究協議A「地域の担い手を育成するための具体的な取組の検討」

【ファシリテーター】北海道立生涯学習推進センター主査 會 田 大 祐

【内容】留萌管内で広域的に実践している事業を例に、人材育成の視点から事業を検証し、その結果をもとに「将来の地域の担い手」の育成に向けた事業を展開するための方策を検討した。



研究協議

研究協議B「連携・協働の構築と人や物の交流をとおした地域づくりの取組を検討」

【ファシリテーター】北海道立生涯学習推進センター主査 川 森 功 偉

【内容】地域住民や各種団体との連携・協働の構築に向けて、人や物の交流をとおした地域づくりの具体的な取組と効果的に取組を進めるための方策を検討した。



個別相談

(4) 個別相談（希望制）

【対応】北海道立生涯学習推進センター主査 會 田 大 祐  
" 川 森 功 偉

【内容】

増毛町	社会教育計画策定における評価の反映の仕方について
留萌市	生涯学習推進計画等の策定における視点について
利尻町	生涯学習推進計画策定における視点や手順等について



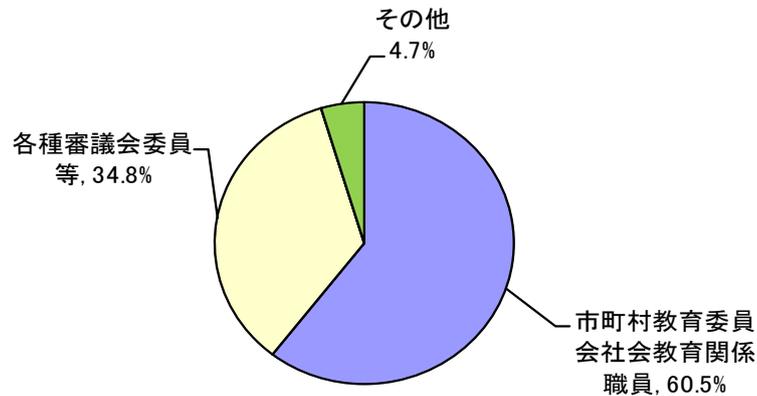
## Ⅱ 事業の満足度

### 1 本講座参加者数 43名

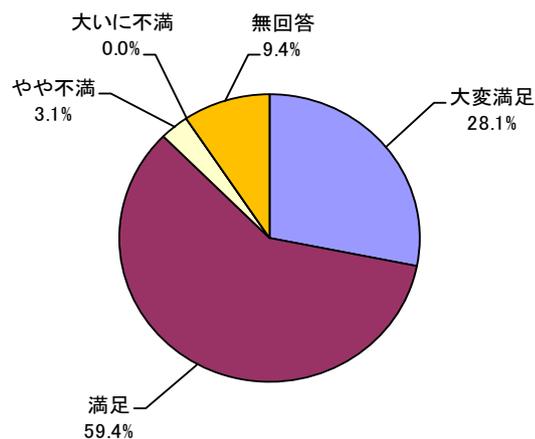
(内訳) 社会教育関係職員の参加者数 26名(60.5%)  
社会教育関係職員以外の参加者数 17名(39.5%)

### 2 アンケート対象者数 43名 回答者数 32名 (回収率 74.4%)

#### 参加者(所属)状況



### 3 講座全体をとおして

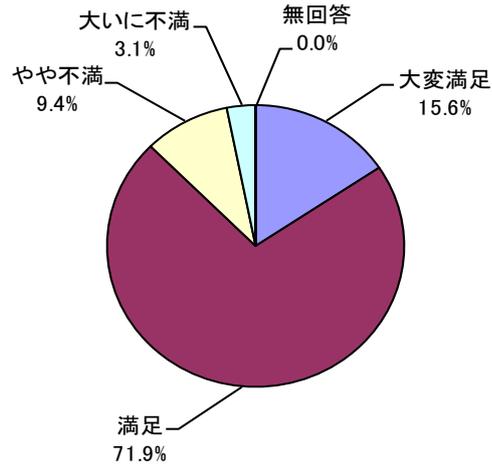


#### 【参加者の主な声】

- 初参加で評価が難しいが、この研修を何かに役立てられるようにしたいと思った。
- 話し合いがスムーズに進行し、とても中身の濃い充実した内容でよかった。
- よい交流ができ、持ち帰れる内容が多い研修だった。
- 社会教育委員として初めて参加したので、研修自体がすごく新鮮でした。
- 少し時間配分に無理があったように感じた。面白かったので残念だった。
- 説明が速く、内容の理解が難しかった。

#### 4 研修プログラムの内容について

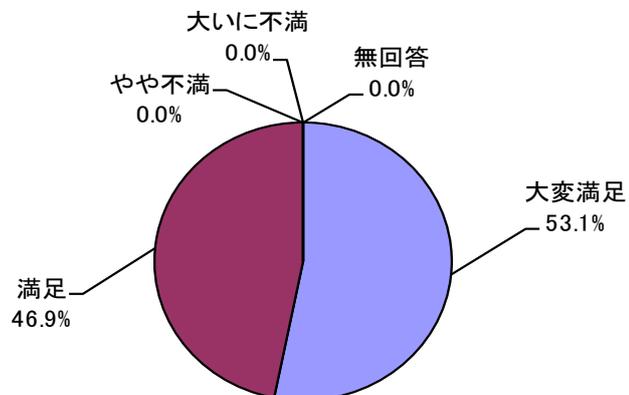
##### (1) 説明「事業評価のポイントや協働を構築するために必要な視点」



##### 【参加者の主な声】

- わかりやすく論点が整理されており、計画を立てる時点で、評価を考えることの必要性を知ることができた。
- 様々な問題を想定し、柔軟に対応ができる計画づくりをすることが大切だと思った。今後の業務に活かしたい。
- 基本的なことがわかり、参考資料等、今後に活用していきたい。
- 評価の反映の仕方について、今後、しっかり勉強していこうと思った。
- 行政職員にとっては、基礎的ではあったが、一般向けではない気がした。
- 説明が速く感じた。詳しく、具体例も含め、説明して欲しかった。

##### (2) 講義「地域の歴史と特性を知り、地域住民と共に創り上げる地域づくり」

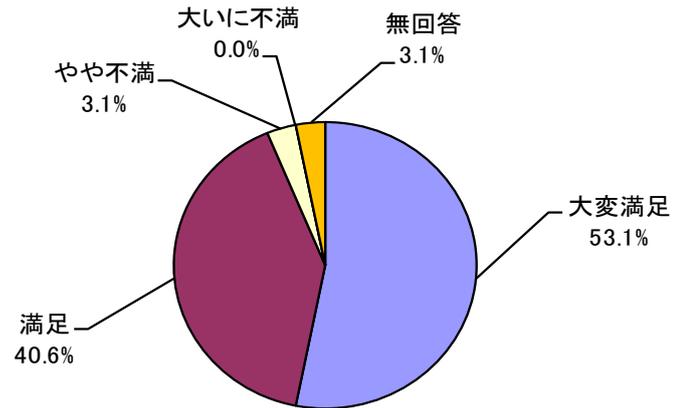


##### 【参加者の主な声】

- 行政との関係性については、今一度しっかり考えなければと思った。
- 年を重ねるにつれ、「当たり前が多くなる」ということに共感した。自分に言い聞かせ、善処したいと思った。
- 講師の素晴らしさを感じ、この機会に出会えたことに感謝したいと思った。
- イベントの成功例としての説明ではなく、素直な気持ちを伝えていただいた気がした。
- 講師の話す内容に共感でき、体験談だったことから、いろいろと考えさせられる内容だった。
- ボランティアスタッフの募集について、人とのつながりの中で集まったことを聞き、驚きを感じた。
- 社会教育関係者へのポイントの説明だけに聞こえた。

(3) 研究協議A「地域の担い手を育成するための具体的な取組の検討」

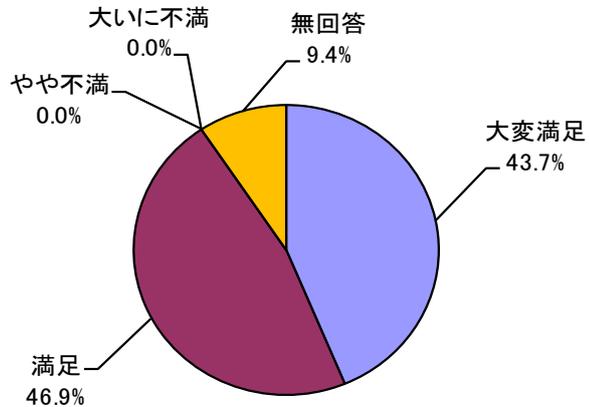
B「連携・協働の構築と人や物の交流をとおした地域づくりの取組を検討」



【参加者の主な声】

- いろいろなまちの課題、解決策を話し合うことができ、自分の気づきが多くあった。
- 同じような問題を持っていると感じた。ないもの言うより、あるものをもっと有効に使うべきと思った。
- 事業を進める上での方向性を考えることができ、やり通す覚悟が必要だと感じた。
- それぞれの地域での活動内容を理解することができ、とても参考になった。
- 目的のブレを起こさないよう、事前に担当者同士の打合せが必要だと感じた。
- 時間が足りず、残念に思った。
- 各グループの話し合う声が大きく、自分たちの協議内容が深められなかった。

5 研修講座の運営について



【参加者の主な声】

- 研究協議の講師がとてもよかった。
- スムーズな運営でよかった。
- 時代の動きに合わせた課題を協議できて、よかった。
- 研究協議のグループ設定もよく、協議の視点を予定変更して話し合いを進行するなど、協議内容を深めることがた。

## 6 その他、本講座をとおして気づいた点

### 【参加者の主な声】

- どこの市町村も高齢化が進んでいる現状を再認識できた。
- 研修の内容的にも大変よく学ぶことができた。
- まちづくりについて、緊急ではないが、重要なことであり、しっかりと取り組まなければと感じた。
- 高校生ボランティアの「将来の地域の担い手」の育成に向けた方向性が少し見えてよかった。
- グループ内での協議が十分にできる時間、環境（声が反響）に配慮する必要があるがあった。
- ワークシート等、説明の前に配布して欲しかった。

## 7 今後の要望等

### 【参加者の主な声】

- ・昼食時間を若干多く取ってほしい。
- ・評価項目で評価段階の「大変満足」というレベルはかなりハードルが高い。  
「満足 → やや満足 → やや不満 → 不満」という段階がよい。
- ・現在の社会で、特に生涯学習の視点を持った活動が大事だと感じていることから、今後もご指導をよろしくお願ひしたい。